

## HICARE 県民・市民向け講演会「コロナ禍における広島医療 ー病気の診断と治療はどう影響を受けてきたかー」報告書

- 1 日時 令和4年（2022年）3月13日（日） 13時30分～15時40分
- 2 場所 広島国際会議場 地下2階「コスモス」（広島市中区中島町1-5）  
※オンライン同時配信
- 3 HICARE 会長のウクライナ侵攻への抗議

神谷研二 HICARE 会長はあいさつで、「HICARE は、チェルノブイリ原発事故で被災したウクライナからも医師や専門家を受け入れ、研修を行ってきた。この度のロシアのウクライナへの軍事侵攻、核兵器使用の示唆、原子力発電所等への攻撃を強く非難する」と述べ、軍事侵攻の即時中止と、事態の平和的解決のための努力をロシアに求めました。

### 4 各講演概要

#### 講演1 コロナ禍における医療現場の実情と社会への影響ーそのとき医療現場はー

講師：大田 敏之（県立広島病院小児腎臓科主任部長／広島県医師会常任理事）

座長：木下 栄作（広島県健康福祉局長）

大田講師は、まず新型コロナウイルスの特徴や治療法について説明しました。オミクロン株の特徴として、約7割に発熱、約6割にのどの痛みの症状があること、亡くなる方は高齢者が多く、持病の悪化や誤嚥（ごえん）性肺炎がよく見られること、肺を守るには「うつ伏せ」の姿勢が有効だが、患者をうつ伏せにするのは医療者にとって大変なことなどを紹介しました。

次に、県立広島病院のコロナ対応について、「コロナのために非コロナの患者を失うことがあってはならない」との信念のもと、診療の一時休止や手術の延期、屋外へのテント設置、検査体制の整備などにより、病院一丸となって対応に当たったことを紹介しました。コロナ病棟整備の最も重要なポイントは看護師の配置であることや、医療スタッフは肉体的ストレスに加え、家族との隔離や差別への不安などの精神的なストレスを感じていたことを説明しました。

最後に、県民・市民の皆さんへのお願いとして、「感染しないこと」「ワクチン接種を進めること」の2つを訴えました。ワクチン接種については、3回目の接種により重症化を防ぐ効果が回復することや、1・2回目と異なるワクチンを接種する「交互接種」も有効と考えられていることを伝えました。

参加者からは、「ワクチン3回目の効果など、データを基にした具体的な説明が分かりやすかった」「県病院の方が大変な努力をしておられることがよく分かった」などの感想が寄せられました。

## 講演2 コロナ禍における放射線治療と広島県における放射線治療の現状

講師：永田 靖（広島大学大学院医系科学研究科放射線腫瘍学教授／  
広島がん高精度放射線治療センター長）  
座長：木下 栄作（広島県健康福祉局長）

永田講師はまず、統計上、日本人のおよそ8人に1人が生涯のうちに放射線治療を受ける時代になっていること、また放射線治療のメリットとして、がんの種類などによっては、体の形態や機能を温存して治療できること、外来通院により治療できることなどを挙げました。

なお、コロナ禍の放射線治療の現状として、患者が県境をまたがず、自宅近くで治療を受ける傾向が見られたことや、従来よりも短い期間、少ない回数で放射線治療を行う施設が増えたことなどを挙げました。

次に、広島県の放射線治療の現状について、2015年10月に開院した広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC）の特徴を紹介しました。HIPRACでは年間500人以上の患者が治療を受けており、肺がんなどに対する「動体追尾照射」（呼吸で動く病気を追いかける照射法）や、前立腺がんなどに対する「波乗り照射」（短時間で病変に集中した照射法）などを得意としていることを説明しました。

最後に、最新のがん治療の紹介として、粒子線治療、免疫療法、人工知能（AI）を用いた治療支援などを挙げました。

参加者からは、「放射線治療は形を残すことができるメリットがあり、技術が向上していることが分かった」「アジア各国への貢献は大切だと思う」「広島で粒子線治療ができるようにしてほしい」などの感想が寄せられました。

## 5 参加者からの質問

終了後のアンケートで、参加者から寄せられた質問の一部について、回答を掲載します。

- ・質問1 全体の70%の方が接種して、集団免疫が獲得できたら、感染リスクが減る一つの目安としていいでしょうか？

回答 新型コロナワクチンについて、集団免疫を得るために必要な免疫を持つ人の割合等、集団免疫についてはまだ正確に分かっていません。(厚生労働省ホームページから抜粋)

・質問2 HIPRAC で治療を受けるには、かかりつけ医からの紹介状が必要ですか？

回答 診察に必要な画像・検査データが必要ですので、できれば担当医の先生から、HIPRAC へ紹介手続きをとってもらってください。(広島がん高精度治療センター(HIPRAC) ホームページから抜粋)

・質問3 HICARE がこれまでにを行った研修について、その効果をまとめたものはありますか？

回答 2021年10月に過去の研修生を対象にしたアンケート調査の結果、回答者45人中41人が、帰国後に会議や勉強会で、研修で得た知識を広めたと回答しました。また、「資料館訪問や被爆者との面会の経験により、総合的な見地を得ることができた」「広島が有する70年の蓄積は人類の遺産であり、決して失われるべきではない」などの意見が寄せられました。